



2020年(令和2年)6月号
中野区立江原小学校 学校便り
校長 根来 郁明 児童数 514名

学校教育目標

自立し、共に生き、平和を求める子
『かしこく』『やさしく』『たくましく』

「安心・安全な学校」にするために

校長 根来 郁明

学校は、子どもたちが安心して通うことができる安全な場所でなければなりません。登校再開にあたり、新型コロナウイルス感染症についての危機意識を高め、対応策について考えていきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様、臨時休業へのご理解ご協力ありがとうございました。

1 想定外を想定する

物事を決める時は、自分の判断で決めていくことが大切です。しかし、判断するための常識(判断基準)が変わり続けるとなると、今ある常識を疑い、柔軟に対応していくことが求められます。今までの常識にこだわることなく、社会の変化を敏感に察知し、「新たな常識」を柔軟に取り入れていくこと(バージョンアップ)が必要になります。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により5月末まで臨時休業になる等、今まで誰も想定していなかった状況が続きました。緊急非常事態宣言は解除されましたが、引き続き外出を控え、三密(密接・密集・密閉)を避け、感染予防に気を付けながらウイルスと共存していかなければなりません。想定外を想定することは非常に難しいことですが、失敗を恐れることなく、よいと思ったことは「まず、やってみる」姿勢を大切にしたいと思います。登下校、授業、休み時間、給食…オンライン学習等、今までの常識にとらわれることなく、柔軟に対応していきます。

2 「教育課程」検討中

4月からの臨時休業により、学校での教育活動(授業、学校行事等)がほとんどできていません。登校再開後、すぐに通常授業を行うことは難しく、授業時数は確実に不足しています。

学校には、「子どもたちのためなら、できることはできる限りやった方がよい」という雰囲気があります。しかし、いくら子どものためだからと言っても、何から何までやっていくには限界があります。「今まで続けてきたから」「子どもたちがかわいそうだから」という理由だけで、授業や学校行事を詰め込み、結果として中途半端になるならば、子どもたちに申し訳ありません。万が一を考えると、学校は「確実に、安心で安全な方法」を選択します。リスクゼロを目指すとは何もできなくなってしまうかもしれませんが、「子どもたちの安心・安全」を一番に考え、優先順位を決めていきたいと思えます。すでに中止、延期した教育活動もありますが、9月以降に予定している教育活動についても、中止や変更(時間短縮、規模縮小)も含めて検討していきます。

『よい学校』とは、課題がない学校ではなく、課題を共有できる学校です。教職員、児童、保護者、地域の方々が、課題を共有し、課題解決に向け一緒に考えていける、そんな学校が理想です。「江原小で学んでよかった」「江原小で学ばせてよかった」と感じてもらえるよう努力してまいります。引き続き、江原小学校の教育活動へのご協力をよろしくお願いいたします。